



## 高橋余一の「生活絵巻」



上の絵に書かれた文章

線香

雷が鳴りだすと

蚊帳をつり線香を  
たいた

くわ原く

暴風雨の際

鎌をさかさにしはって

竹竿にくっり

風にさからって

立てる

暴風雨に乗って来る  
魔を除けるためとか

## 29 二百十日

初秋の頃、風が吹く日は、竹竿に逆さにした鎌を結び付け、軒などに立てました。これは、台風季節に農作物が被害に遭わないように願って行う風を切るおまじないです。地域によっては、雷の鳴る時に立てたり、竹竿をもって「ホオイホオイホオイ」と掛け声をかけて、風を追ったりしました。このおまじないは、立春の日から数えて210日目にあたる9月1日頃に行いました。「二百十日」は厄日とされ、何事もなく過ぎると風の神の祠にお神酒を供えてろうそくをともし、お参りをしました。

現在は、この時期の一週間が防災週間にあたります。防災意識を高めるとともに、先人の息災への思いも振り返りたいものです。

雷が鳴るとき、蚊帳の中に入れば雷が落ちないとか、線香を立て「くわばらくわばら」と唱えるのも言い伝えやおまじないです。

※文化の森まゆの家では、9月15日祝まで鎌を竹に結び付けて風を追う行事「二百十日」の様子を見ることができます(自由観覧)